

自社開発の高機能LED電球でグッドデザイン賞を受賞

仕事上必要な資材がどこにも売っていないのなら自分でつくってしまえという精神で、建設会社がLED電球を自社で開発、製品化にまでこぎ着けた。高機能が評価されて今年度のグッドデザイン賞を受賞した。

仕事上の必要でLED電球を自社開発

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する今年度のグッドデザイン賞は、秋田県では過去最高となる14件の受賞となった。

秋田市の有限会社サイカツ建設が応募したLED電球〈Super Noise Less/Natural Color Harmony〉もその一つで、電子機器としては県内初の受賞製品である。

サイカツ建設はホテル関係の仕事を得意とし、秋田市内や東北各地の都市ホテルの内装工事やメンテナンスなどを手がけている。昨今はLED照明が普及しつつあるが、ホテルなどでの間接照明に適したLED電球はほとんどなく、それなら自分たちでつくってしまおうと考えたのがLED電球開発のきっかけだった。

大手メーカー品より優れた性能を発揮

電子部品製造の新屋工業株式会社(秋田市)との協力のもと、平成21年からLED電球の製品化に着手。量産して販売するのではなく、自社の取引先のホテルなどに使ってもらおう戦略的ツールにしようという思惑であった。

LED電球はそれ自体が電子機器であり、ノイズを発生させてしまう。製品にもよるが強いノイズを発生するLED電球はペースメーカーや電磁波アレルギーのある人には悪影響を及ぼすおそれもある。

グッドデザイン賞
トロフィーと
受賞製品。



有限会社サイカツ建設

〒010-1421
秋田県秋田市仁井田本町二丁目22-20
Tel.018-839-5037 Fax.018-839-8458
http://www.saikatu.co.jp
E-mail contact@saikatu.co.jp

サイカツ建設が開発したLED電球は、間接照明に適した構造であるだけでなく、ノイズが極めて少ないというのが大きな特長。そのため、従来は不可能だった医療機関でのLED電球の導入も、この製品であれば可能というスペックになっている。

助言を得てグッドデザイン賞を受賞

ノイズが少ないということと、電球色と白色の2種類の発光素子を組み合わせることで演色性を高めた点がグッドデザイン賞の受賞要素になった。

グッドデザイン賞に応募しようと思い立ったのは、あきた産業デザイン支援センター主催の講演会で同賞の話聞いたのがきっかけで、実際の応募にあたっては、インターネット上でのオンライン応募の方法などに相談に乗ってもらった。2種類の電球を応募するうち、一つは医療機関向けと謳うことにしたのもセンターの助言によるもので、今回はこのタイプが受賞している。

今後は、本業である建設業を引き続き主軸に据えつつ、有機ELなどにも目を向けて新しい照明の開発に力を入れていきたいという。



- 1 グッドデザイン賞の賞状を持つ齊藤勝俊社長。
- 2 賞状に記された受賞者名。
- 3 グッドデザイン賞を受賞したLED電球(Super Noise Less / Natural Color Harmony)(受賞したのは手前のタイプ)。
- 4 実用新案は平成24年12月に取得している。

事業の解説

あきた産業デザイン支援センター事業

伝統的工芸品をはじめとする県内製造業を対象に、産業デザイン・製品開発・マーケティング等について専門的な助言を行います。また、「あきた産業デザイン協議会」と連携し、県内企業への産業デザインの導入を促進します。

【制度の利用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／あきた産業デザイン支援センターまで。